

---

# 学術出版の祖アルド・マヌーツィオ

雪 嶋 宏 一

---

## 1. はじめに

アルド・マヌーツィオ (Manuzio, Aldo) (図1) は、ドイツのヨハネス・グーテンベルク (Gutenberg, Johannes, ca. 1400-68) やアントン・コーベルガー (Koberger, Anton, 1440-1513)、あるいは英国のウィリアム・キャクストン (Caxton, William, 1420/24-ca. 91) 等と並んで最も著名な15世紀ヨーロッパの印刷業者の一人である。彼は印刷所を営む以前はギリシア語の教師であった。その経験から彼はギリシア古典の優れた版



図1：アルド・マヌーツィオ肖像  
[Renouard 1803, t. 1, frontispiece] (早稲田大学図書館蔵)

を自ら刊行するという志を抱いて印刷業者になったという。それ故、彼は同時代のフランスのジョス・バード (Badius Ascensius, Jodocus, 1462-1535) やスイスのヨハン・フローベン (Froben, Johann, 1460-1527) 等と並んで「学匠印刷家」と呼ばれている。

ところで、わが国ではアルド・マヌーツィオはアルドゥス・マヌティウス (Aldus Manutius) というラテン語名で知られている。なぜラテン語名でわが国に紹介されたかということ、英語やドイツ語の文献でラテン語名が使

用されていることと関係があろう。実際、彼は印刷した書物の前書きおよび奥付をラテン語で記しており、自らの名前をラテン語語形で表記している。そのため、わが国でもラテン語名を使用することに特に違和感もたれていないと思われるが、イタリア人の場合にはイタリア語名で呼ぶほうがわが国ではより一般的であることを考慮すれば、「アルド・マヌーツィオ」を採用するほうが適当であるといえよう。したがって、本稿では彼の名前をイタリア語名「アルド・マヌーツィオ」で統一することにした。

本稿の目的は、「学匠印刷家」として活躍したアルド・マヌーツィオの印刷活動がどのように展開されたかを検討することによって、初期の学术図書の印刷・出版がどのようなものであったかを明らかにすることであるが、今回は彼が印刷した作品のテキストを検討するのではなく、伝記的な事項にとどめることにしたい。

## 2. 若き日のアルド・マヌーツィオ

アルドは1494年にヴェネツィアに印刷所を開設して印刷業界にデビューした。したがって、それ以降については多くの資料が残されており、印刷業者としての彼の歩みを詳細に知ることができる。しかし、それ以前の半生については極めてわずかな資料しかないため、実際どのような活動をしていたのかは断片的にしか知ることができない。

アルドは15世紀中葉にローマ南東約65kmにあるセルモーネタ近郊の丘陵の小村バッシアーノで生まれた。彼は最初の著作となった『ムーサイの祭典 *Musarum panagyris*』の冒頭で「ラティウム人バッシアーノのアルドゥス・マヌッキウスによる per Aldum Mannuccium Bassianatem Latinum」と名乗っており [AME I, p.157]、さらに1496年に印行した『豊饒の角の宝鑑 *Thesaurus Cornucopiae*』(表1-8)の前書きでは「ローマ市民バッシアーノのアルドゥス・マヌッキウス Aldus Manucius Bassianas Romanus」と称している [AME I, p.10]。彼の生年についてはいくつかの説がある。エラスムス (Erasmus, Desiderius, 1466-1536) は彼の生年を計算上1447年とみなし、ア

ルドの息子パオロ (Manuzio, Paolo, 1512-1574) は1452年頃と記録し、アルドの孫のアルド (Manuzio, Aldo, 1547-1597) は1451年頃とした。書誌学者フレッチャー (Fletcher, Harry George III) はパオロの証言がマヌーツィオ家の正しい伝承であると考え1452年説を支持している [Fletcher 1988, p.27]。

アルドの父はアントニオ (Antonio) という名で、子供はアルド以外にパオラ (Paola)、ジュリア (Giulia)、ペトルッチャ (Petruccia)、ベンヴェヌータ (Benvenuta)、レティツィア (Letizia) の5人の姉妹がいた [Fletcher 1988, pp.32-33]。しかし、彼の祖先についてはほとんど何もわかっていない。わずかに、14世紀にモンテカッシーノ東方の都市ヴェナフロの司教を務めたペトルス・マンドゥティウス (Petrus Mandutius) がバツシアーノ出身者であり、アルドの祖先の一人とみなされている程度である [Fletcher 1988, p.1]。

少年時代のアルドについても何も伝えられておらず、彼が中世末期の小村でどのように育ったかは不明である。彼が本格的に学問を学んだのは、ローマで学生時代を過ごした1460年代末から70年代半ば頃である。少なくとも2人の教師に師事したことを彼は後に記している。一人はガスパレ・ダ・ヴェローナ (Gaspere da Verona) で、1450年代末にはサピエンツァの修辞学教授として名前が知られていた。おそらくアルドはサピエンツァの学生として1460年代末から70年代初頭に彼にラテン語あるいは修辞学を学んだと思われる。もう一人は1472年に枢機卿ベッサリオン (Bessarion, Joannes, 1403-1472) に随行してフランスに赴いたドミツィオ・カルデリーニ (Calderini, Domizio, 1446-78) である。彼はラテン語文献について豊富な知識をもっていた。アルドがカルデリーニに師事したのは、彼がフランスから帰国した1472年以降であろうと推測されている [Lowry 1979, p.49]。

このような断片的なエピソードから、アルドはローマではラテン語および古典学を習得し、学生や学者たちのサークルに参加し、親交を結んだと思われる。その中にはカルデリーニ門下のマルカントニオ・サベリコ (Sabellico, Marcantonio, 1436?-1506) がいた。彼は後にヴェネツィアのサン・マルコ図書館 (ビブリオテカー・マルチアーナ Biblioteca Marciana) の司書とな

り、ベッサリオン枢機卿の文庫（後述）を管理する傍ら、アルドがヴェネツィアでギリシア・ラテン古典を印刷する際に援助を惜しまなかった。

ところで、アルドがローマで勉強を始めた1470年頃、ローマとヴェネツィアは当時の最新のヴェンチャー産業である活版印刷業の中心地を形成し始めた。アルドの師ガスパレ・ダ・ヴェローナはその当時すでに印刷本についてメモを残していたという。また、ギリシア出身の枢機卿ベッサリオンが900冊におよぶ当時最良のギリシア・ラテン語文献の写本をヴェネツィア共和国に寄贈することを決めたのは1468年3月のことであり、蔵書はサン・マルコ図書館に収蔵された [Labowsky 1979]。1472年にベッサリオンが亡くなり、彼がローマで主催していたアカデミーが解散し、ローマの人文主義者たちは中心的存在を失った。

### 3. 古典語教師時代

1470年代後半はフェラーラへ移った。そこでは、コンスタンティノープルでギリシア語を習得した著名な人文主義者バッティスタ・グアリーノ (Guarino, Battista, 1435-1505) に師事してラテン語とギリシア語を学んだ。グアリーノはギリシア語・ラテン語の優れた教科書『教えることと学ぶことの階梯 *De ordine docendi et studenti*』を著し、1474年と76年頃にフェラーラで刊行された。グアリーノ門下には後に著名な学者となるジョヴァンニ・ピーコ・デッラ・ミランドラ (Pico della Mirandola, Giovanni, 1463-94) らがいた。彼は後にアルドが印刷業に乗り出す計画を後押しすることになる。

アルドはフェラーラでギリシア語を習得した後、モデナ近郊の都市カルピの領主ピオ (Pio) 家で二人の王子アルベルト (Alberto) とリオネッロ (Lionello) のラテン語とギリシア語の家庭教師となった。アルドが二人の教師となるきっかけはピーコ・デッラ・ミランドラの仲介があったからであろう。彼は他ならぬ彼らの叔父であった。しかしながら、アルドがフェラーラを去り、カルピに移ったのは1482年以降との記録もあり、彼はフェラーラとカルピの間を行ったり来たりしていたと思われる。1482年にフェ

ラーラがヴェネツィアの侵攻を受けた際には、フェラーラからピーコ・デッラ・ミランドラの郷里ミランドラ（カルピ北東）へ避難したこともあった。

アルドは1489年頃まで家庭教師としてカルピに滞在し、その間に二人の王子のために小著を残している。兄アルベルトと母カテリーナ（Caterina）（寡婦）のために前述の『ムーサイの祭典』を、弟リオネッコのために『レオネッコ・ピオへの助言 *Paranenensis*』を著した [AME, pp.157-164]。前者ではテオクリトスやヘシオドスの一節がギリシア語とそのラテン語訳で引かれている。書誌学者ビューラー（Bühler, Curt）は本書の執筆がカルピ滞在初期の1484年に行なわれたとみなした。その理由は二人の王子の母カテリーナが同年末までにミラノのロドルフォ・ゴンザーガ（Gonzaga, Rodolfo, 1451-95）と再婚したからである [Bühler 1973, pp.128-137]。後にこれら2書はヴェネツィアのバプティスタ・デ・トルティス（Baptista de Tortis）によって印行された。前者は四折判8葉のパンフレットとして1487年から1491年の間に印刷され、後者は四折判2葉のリーフレットとして1490年頃に刊行されたとみなされている。もし、両者の印刷が1490年代であれば、それはアルドがカルピを去り、ヴェネツィアへ移った後のことである。アルベルト・ピオはアルドを師として尊敬するばかりでなく、その後はパトロンとしてアルドを援助することを惜しまなかった。

また、カルピ滞在時代にピーコ・デッラ・ミランドラを通じてアンジェロ・ポリツィアーノ（Poliziano, Angelo Ambrogini, 1454-84）と書簡を交わした。ポリツィアーノはマルシリオ・フィチーノ（Ficino, Marsiglio, 1433-99）とともにフィレンツェを代表する当代一流の人文主義者であった。ポリツィアーノは、古代ギリシア・ラテン文学を研究してテキストの校訂・翻訳を行ない、ロレンツォ・デ・メディチ（Lorenzo de' Medici, 1449-92）の書物収集の助言者を努め、書物を求めてイタリア中を旅した。そして、ポリツィアーノは正しいテキストを出版するために印刷術にも関心を持っていた。

アルドがいつ頃ギリシア語文献のより優れた校訂と印刷という夢を抱く

ようになったのかははっきりしないが、カルピ滞在時代に人文主義者たちから受けた影響は決して少なくないと思われる。

#### 4. 学匠印刷家としての出発

アルドがヴェネツィアへ赴いたのは1490年前後のことである。アルドはギリシア・ラテン古典のよりよい版を印行する場所として、学問と芸術の中心地フィレンツェではなく、商業と印刷業の中心地ヴェネツィアを選んだ。当時のフィレンツェにはロレンツォ・デ・メディチ (Lorenzo de' Medici) が主催するアカデミーにギリシア人学者とイタリアの人文主義者が集まり、デメトリウス・カルコンデュラス (Chalcondylas, Demetrius, 1423-1511)、ヤノス・ラスカリス (Lascaris, Janus, 1444/45-1534)、ポリツィアーノ、フィチーノを中心に古典学が研究されていた。1484-85年にはフィチーノ訳『プラトン著作集』がロレンツォ・ディ・アロパ (Lorenzo di Aropa) により印行され、1488/89年初めにカルコンデュラス編集による『ホメロス著作集』ギリシア語初版がベルナルド・ネルリ (Nerli, Bernardo) によって刊行されるなどギリシア文献の出版が行われていた。しかし、1492年にロレンツォ・デ・メディチが亡くなりフィレンツェにも陰りが出始めていた。

一方、ヴェネツィアは学芸ではフィレンツェには及ばないが、多くのギリシア人がギリシア (主にクレタ島) から避難して来ており、大きなギリシア人コロニーが形成されていたため、ギリシア語を理解する職人を得るのが容易であり、ギリシア語文献の印刷にはフィレンツェより有利であった。そして、ヴェネツィアは当時政治経済的な絶頂期にあり、ヨーロッパ最大の印刷中心地として印刷業が発展し、印刷所設立と出版のための出資者を見つける機会に満ちていた。さらに、前述のベッサリオン枢機卿の蔵書が利用できる可能性もあった。このような企業家としての先見の明により、アルドはヴェネツィアで夢を実現する決心をした。

アルドはヴェネツィアで印刷所を設立するために様々な人々から援助を

得た。前述のアルベルト・ピオの援助は掛替えのないものであったが、ヴェネツィアではアンドレア・トッレザーニ (Torresani, Andrea, 1451-1528) とピエルフランチェスコ・バルバーリゴ (Barbarigo, Pierfrancesco) が出資者として重要な役割を果たした。

書誌学者ロウリー (Lowry, Martin) はアルドとトッレザーニは1493年3月9日までに確実に出会っていたと述べている。その理由は、学者としてのアルドの処女作である『ラテン語文法提要 *Institutiones grammaticae*』をトッレザーニがその日付で上梓しているからである [Lowry 1979, p.76]。アルドは本書にアルベルト・ピオへの献辞を記し、彼の援助に感謝している。因みに、本書はサン・マルコ図書館に唯一現存するユニーク・コピーである [Jensen 1998, p.247]。トッレザーニはマントーヴァ近郊のアゾーラで1451年に生まれているからアルドとは同世代である。しかし、彼は1470年代中頃に当時ヴェネツィアで最も有力な印刷業者ニコラ・ジャンソン (Jenson, Nicholas, 1420-80) の工房に弟子入りした。ジャンソンはローマン体活字をラテン古典文献に使用して当時の人文主義者たちから好評を得、ルネサンスの印刷文化の発展に多大な貢献をしたフランス出身の印刷業者であった。トッレザーニはジャンソンが亡くなる前年の1479年にその活字を譲り受け、優れた印刷文化の継承者となった。しかしながら、トッレザーニは古典文献の印刷だけに仕事を限定せず、大学町パドヴァの印刷業者と提携して学生や学者向けに法律書や哲学書の印刷を手がけた。そして、アルドと邂逅した頃にはトッレザーニはヴェネツィア印刷業界の有力者の一人となっていた。15世紀末の印刷業界では同業者間の業務提携や印刷業者と書籍商との国際的な販売契約などがすでに行われるようになっていた。そのため、トッレザーニが、ギリシア古典文献の印刷を手がけようとしていたアルドへ出資をしたことは事業の拡大を狙った投資であったはずである。しかし、トッレザーニはこのような資本家としての面だけでなく、自分の娘を嫁がせて彼の義父となって援助するという庇護者の面があった。彼はアルドの死後も「アルドとその義父トッレザーニの家にて in aedibus Aldi, et

Andreae Asulani soceri」という言葉を奥付に印刷してアルドの意思を継いで印刷所を家族で維持し、結局はジャンソンとアルドの文化遺産を引き継ぐというヴェネツィア印刷文化の正当な継承者となったのである。

アルドの印刷所設立に出資したもう一人の人物ピエルフランチェスコ・バルバーリゴはヴェネツィア総督に1485年に就任したマルコ・バルバーリゴ (Barbarigo, Marco) の息子である。マルコは1年足らずで退位したが、伯父のアゴスティーノ (Agostino) が後継したため、バルバーリゴ家は当時ヴェネツィアの最も有力な貴族として君臨していた。ピエルフランチェスコが出資した理由は契約によって得られる配当であり、印刷業に乗り出すような意図をもっていなかったようだ。ピエルフランチェスコはヴェネツィア議会の議員となるが1499年に亡くなり、印刷所からの配当を継承する者もなかったことから、新興の印刷業に興味をもつ家族ではなかったといえよう。

アルドがこれら二人と1495年頃に結んだ出資契約ではそれぞれの配当はバルバーリゴ対トッレザーニおよびアルドが印刷所から上がる利益を折半し、トッレザーニとアルドの配当比率は4対1であるという [Lowry 1979, p.85]。つまり、全利益の10分の1だけがアルドの手元に残るということになり、決して条件のよい契約ではなかったと思われる。しかしながら、人生の半ばを過ぎて印刷業界にデビューしようというアルドにとっては、ヴェネツィアの有貴族と有力な印刷業者に太いパイプを持つことができたことは大変重要なことであった。こうして、アルドは1494年に事業を開始し、1495年ないし96年初めには職人が多く集まるサン・ポーロ (San Polo) 地区のサンタゴスティーノ (Sant' Agostino) 広場近くに印刷所を開設することができた [Fletcher 1988, p.41]。

## 5. アルド・マヌーツィオ印刷所の活動

アルド・マヌーツィオは印刷業者として1495-1515年の間に131版を刊行している (表1)。その内訳は、古典ギリシア語作品43版、古典ラテン語



作品31版、キリスト教関係書11版、人文主義者作品46版である。判型としては1枚刷り2版、二折判49版、四折判32版、八折判45版、十六折判2版、三十二折判1版である<sup>注</sup>。また、制作した活字はローマン体活字6種、ギリシア語活字4種、イタリック体活字1種、ヘブライ語活字1種であった。ロウリーはアルド・マヌーツィオ印刷所の活動をおおよそ次の4期に区分している [Lowry 1979, pp.110]。

- 1) 第1期：1495－1501年、準備と確立の時期、ギリシア文献の印刷に集中。
- 2) 第2期：1501－1503年、発展期、八折判の古典およびイタリア文学印刷。
- 3) 第3期：1504－1509年、衰退、中断、復帰の時期。
- 4) 第4期：1512－1515年、復興期。

このような区分に沿って印刷所の活動を概観してみよう。

### 5.1. 第1期：1495－1500年

アルド・マヌーツィオ印刷所の最初の作品がどれであるのかについては議論がある。奥付に印刷年月日が明記された最初の図書は本文末尾の最初の奥付に1494年2月末日の刊記があり、巻末の奥付にさらに1495年3月8日の日付をもつコンスタンティノス・ラスカリス (Lascaris, Constantinus) 『ギリシア語文法 *Erotemata cum interpretatione latina*』(表1－1) (ギリシア語ラテン語対訳版) である。当時のヴェネツィアでは1年の初めを3月1日とする旧暦が使用されていたことを考慮すれば、本文の完成が1494年2月末日であり、巻末の register と errata を仕上げたのが8日後の1495年3月8日であったということが理解できよう。ところが、アルドはそれ以前にテオドロス・プロドモス (Theodorus Prodomus) 『蛙と蛇の戦い *Galaeomyomachia*』(表1－2) とムーサイオス (Musaeus) 『詩集 *De Herone*

et Leandro』(表1-3)を試しに印刷したとする意見もある [Lowry 1979, p.82, p.100 note2, p.112; AMAV, p.211, 1]。両書には印刷年が刷られていないため、印刷時期を正確に特定することができない。ムーサイオス詩集はギリシア語にラテン語訳を伴うものであるが、ギリシア語本文を1495年に印刷し、ラテン語訳を1497年頃に印刷したともみなされている [AMT, p.30; AM, p.212, 7]。いずれが最初であるかは定かではないが、これら3書がアルド印刷所で最初期に制作された作品であることは間違いない。

アルドはラスカリス『ギリシア語文法』にラテン語の前書きを添えて、本書の成立事情を記している。それによれば本書はヴェネツィアの有力貴族の2人の若者ピエトロ・ベンボ (Bembo, Pietro, 1470-1547) とアンジェロ・ガブリエレ (Gabriele, Angelo) がシチリアに旅行した時にメッシーナ在住のラスカリスに会って本書の稿本を入手したという [AME I, p.3]。このようなアルド自身による前書きはアルドの印刷書の大きな特徴となり、編集事情やアルド個人の事情などに関する重要な資料となっている。

アルドがギリシア語文献を刊行するにあたって編集の片腕として活躍したのはクレタ島カンディア出身のマルコス・ムスロス (Musurus, Marcus, ca. 1470-1517) である。ムスロスはカンディアで基礎的な教育を受けた後、1486年頃にフィレンツェへ移り、デメトリウス・カルコンディラスらに師事してギリシア・ラテン語学を修めた。その頃に彼はピーコ・デッラ・ミランドラを通じてアルドと知り合っていたのではないかと推測されている [Geanakoplos 1973, p.120, n.38]。アルドが印刷所を設立した1494年にはムスロスもヴェネツィアに赴き、アルドと合流していたとみなされている。彼はムーサイオス詩集に関与し、さらにアリストテレス著作集(表1-4, 10, 21, 22, 24)の編集にも関係したが、彼の校訂が賞賛されたのは1498年のアリストパネス (Aristophanes)『喜劇9書 *Comoediae novem*』(表1-25; 図2)と1499年の『ギリシア哲学者書簡集 *Epistolae diversorum philosophorum oratorum rhetorum sex et viginti*』(表1-30)であった [Legrain I, pp.47-49, 54-55; Geanakoplos 1973, pp.121-122]。これらによって彼の才能は認められ、同年

彼はヴェネツィアを去りカルピのアルベルト・ピオのもとに至り、ついでパドヴァで教鞭を取るようになった。しかし、アルド印刷所との関係はその後も絶えることはなく、アルド印刷所に最も貢献した人物となった。

印刷所の最初のギリシア語活字 (Type 1: 125Gr) は、ニコラス・バーカー (Barker, Nicolas) によればインマヌエル・ルソタス (Rhusotas, Immanuel) によって15世紀中葉にヴェネツィアで確立されたギリシア語書体に基づいておそらくアルドが筆記したギリシア語稿本をモデルにしてフランチェスコ・グリッフォ



図2：アリストパネス『喜劇9書』1498年版（早稲田大学図書館蔵）

(Griffo, Francesco, d.1518) が制作したものである [Barker 1992, pp.52-5-63]。アルドのギリシア語活字はギリシア語写本を正確に印刷で再現可能とする最初のもので、アクセントおよび氣息音記号や多様な連字と縮約文字などを含み、ギリシア語文献の印刷を確立したと言える。アルドは、ギリシア語書印刷とギリシア語からラテン語に初めて翻訳される書物の印刷について1495/96年2月25日にヴェネツィア議会から20年間の印刷特認権を得た [Fletcher 1988, p.139; Barker 1992, pp.92-95]。しかし、実際には1498年頃にバルトロマエウス・ペルシウス (Bartholomaeus Pelusius) らがヴェネツィアでギリシア語書を印刷し、またザカリアス・カリエルゲス (Callierges, Zacharias, d.1523) が1499年からギリシア語書の印刷を行っており、必ずしもアルドがヴェネツィアでギリシア語書の印刷を独占したのではない。また、1498年12月6日にはギリシア語書8点の印刷特認権がヴェネツィア議

会から下った。8点とは、スダ、デモステネス、ヘルモゲネス、プルタルコス、クセノポン、アリストテレス、ディオスコリデス、ステファノスであるが、この時期に刊行されたのはわずかにアリストテレスとディオスコリデスのみであった [Lowry 1979, p.115]。

一方、アルドは1498年10月にそれまでに印刷したギリシア語書だけを収録する1葉の販売目録を印行した。目録には15点が分野別に収録され、それぞれの著者、書名、内容、価格が記されていた [Renouard 1991, pp.329-332; AME I, tav.IX; 雪嶋 1991, p.4]。アルドはその後も1503年6月と1513年11月にそれぞれ刊行書目録を印刷した (後述)。

筆者はロウリーと異なって第1期を1500年までとしたが、その理由は、アルドが1500年にはわずか2書しか印刷しておらず、1501年以降の旺盛な発展期とは著しい差があるため、ここで区分可能と考えたからである。第1期にギリシア語書 (ギリシアラテン語書を含む) を19書、ラテン語書16書、イタリア語書2書を刊行したことになる (表1)。

## 5.2. 第2期：1501-1503年

第2期はアルド印刷所の発展期であり、印刷所の顕著な特徴となったイタリアック体活字による印刷、八折判古典シリーズの刊行開始、「錨とイルカ」の商標の使用、ネアカデミア (新アカデミー) の設立および印刷特認権の取得と海賊版の横行への対策などが行われた大変多忙な時期であった。

イタリアック体活字の制作は1500年には着手されていた。1500年9月に刊行されたシエナの聖カテリーナ (St. Caterina da Siena, 1347-80) 『書簡集 *Epistole*』 (表1-36) の第1葉に印刷された聖カテリーナを描く木版画の中でイタリアック体活字が初めて使用されたが、そこにはわずかに *iesu dolce, iesu amore, iesu* という語が表記されたに過ぎず、試行的なものであった [Fletcher 1988, p.79]。イタリアック体活字の本格的な使用は1501年4月刊行の八折判ウエルギリウス (Vergilius Maro, Publius) 『著作集 *Vergilius*』 (表1-40) である。この活字はフランチェスコ・グリッフォによって制作された

もので、20行の高さが79–84mm、小文字のみで大文字はローマン体であった。イタリック体は15世紀の人文主義者書体を斜めにしたような形をしており、バルトロメオ・サンヴィート (Sanvito, Bartolomeo) あるいはポンポニオ・レート (Leto, Pomponio) 自身の文字に由来するのではないかと議論されてきた [Lowry 1979, pp.140-141; Fletcher 1988, pp.77-79]。しかし、バーカーはイタリック体活字の連字を仔細に検討して両者の文字とは異なるがレートのものに近いことも認めた上で、一方でヴェネツィアで活動するアルドはローマのレートの影響を避けていたとすれば、アルド自身の文字をモデルにしたのではないだろうかと考えた。ところが、ローマの人文主義の影響下で学んだアルドの文字はやはり彼らのものと似ていたであろうとみなしている [Barker 1992, pp.109-114]。このイタリック体活字はその後息子パオロにまで引き継がれて1559年まで長い間使用され続けた。

次に八折判の古典シリーズ刊行についてであるが、八折判は活版印刷の最初期から利用された判型である。イタリアではローマのウルリヒ・ハーゲン (Han, Ulrich, d.1478) によって1468–69年頃に古典作品パラリス『書簡集』で利用されており、さらに彼は1469年頃にラテン古典文学ユウェナリス『風刺詩』をこの判型で印行した。聖書の八折判も1491年にバーゼルのヨハン・フローベンによって印行されており、八折判は15世紀末にはすでに珍しくなかった。しかしながら、アルドは1497年に『時祷書 *Horae*』(表1–18)、その翌年に『聖務日課書 *Brevissima introductio*』(表1–19)を十六折判で刊行したが、1500年までは八折判を手がけていなかった。アルドは1503年に印刷した販売目録で八折判についてはギリシア語書では「袖珍判にて in formam Enchiridii」と説明し、ラテン語およびイタリア語書については「袖珍判の携帯図書 *Libelli portatiles in formam enchiridii*」という項目を設けて14点挙げ [AME I, tav. XII & XIII]、ポケットに入る携帯可能な判型であることを明記している。バーカーによれば、アルドの八折判の寸法は約160×110mmのやや縦長のサイズである。縦長の形は中世以来注釈なしの韻文の写本に好まれたもので、ペトラルカは自筆本にこの約160×

110mm の寸法を採用したという。アルドはこの伝統に基づいて縦長の八折判を主に韻文の印刷に採用したのであり、そのサイズにふさわしい活字としてイタリック体活字とギリシア語活字 Type 4 (80Gr) を制作したのではないかと述べている [Barker 1998, pp.104-107]。ところで、アルドが刊行した八折判古典作品はそれ以前には八折判で刊行されたことがなかったものが多い。ソポクレス (Sophocles) 『悲劇 7 書 *Tragaediae septem*』(表 1-60; 図 3) とエウリピデス (Euripides) 『悲劇 17 書 *Tragoediae septendecim*』(表 1-69) は初版ながら八折判であった。しかし、アルドはギリシア語書の多くをむしろ二折判で刊行し、八折判はラテン語

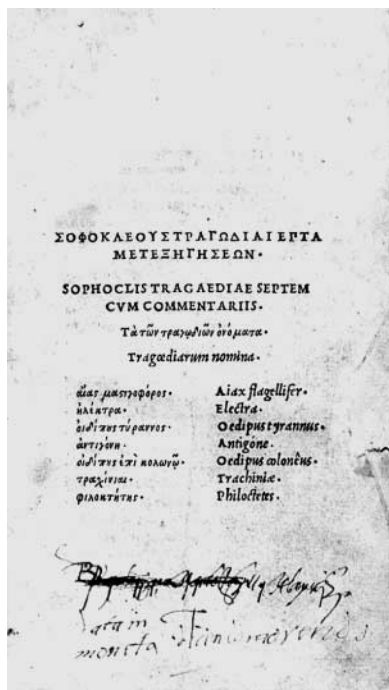


図 3：ソポクレス『悲劇 7 書』1502年版  
(早稲田大学図書館蔵)

作品が大半であった (表 2)。その理由は、ギリシア語書はラテン語書よりも刊行に費用がかかり、販売も思わしくないため、費用が安くすみ販売も容易であり人気のあったラテン語詩集が中心となったのである [Lowry 1979, p.147]。

「錨とイルカ」の商標 (Device) はヨーロッパ印刷史上最も有名な商標であるとさえ言われている [Fletcher 1988, p.43]。この商標の最も早い使用例は1502年6月刊行の『キリスト教者詩集 *Poetae Christiani Veteres*』第2巻 (表 1-59) である。「錨とイルカ」の図と AL | DVS の名前が二重の枠で囲まれたものであった (図 4) [Fletcher 1988, p.45, No.1]。2番目の例は同年8月刊行のダンテ (Dante Alighieri) 『神曲 *Le terze rime*』(表 1-61) 第2刷り



図4：「錨とイルカ」の最初の商標  
[Fletcher 1988, p.45, No.1]

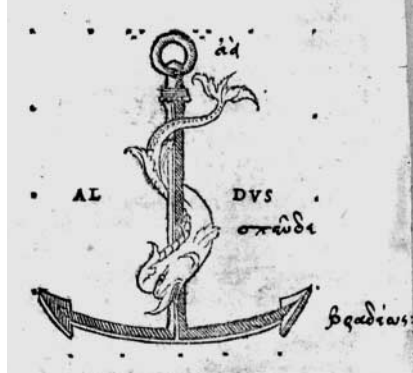


図5：ソポクレス『悲劇7書』1502年版  
(早稲田大学図書館蔵)、196葉裏に  
印刷された「錨とイルカ」、 $\alpha\epsilon\iota$   
 $\sigma\pi\epsilon\upsilon\delta\epsilon$   $\beta\rho\alpha\delta\acute{\epsilon}\omega\varsigma$ とペンで書き込ま  
れている。

とソポクレス『悲劇7書』（いずれも八折判）であり、方形の枠がドットで示されたものであった（図5）[Fletcher 1988, p.45, No.2]。以降アルドは1515年の死に至るまでにいくつかのヴァリエーションをもつ6種類の「錨とイルカ」の商標を使用した [AP, pp.25-27]。この図像は1499年刊行の『ポリフィーロの狂恋夢 *Hypnerotomachia Poliphili*』（表1-35）のd7表に印刷された木版画「忍耐は人生の飾りであり守りであり保護である *Patentia est ornamentum custodia et protectio vitae*」の中にすでに表現され、その寓意が  $\text{AEI } \Sigma\text{ΠΕΥΔΕ } \text{ΒΡΑΔΕΩΣ}$ . *Semp(er) festina tarde* と説明されている（図6）[Colonna 1998, p.69]。この言葉の出典はスエトニウス（Gaius Suetonius Tranquillus）『ローマ皇帝伝』のアウグストゥス帝（Augustus, B.C. 27-14 A.D.）の言葉（ $\sigma\pi\epsilon\upsilon\delta\epsilon$   $\beta\rho\alpha\delta\acute{\epsilon}\omega\varsigma$ ）である（アウグストゥス25章4節）。国原吉之助氏はこれを「ゆっくりと急げ」と邦訳している [スエトニウス, p.119]。また、2世紀の文法家アウルス・ゲッリウス（Aulus Gellius）も言及している（*Noctium Atticarum* 10.11.5）。アルドはこの言葉を1498年刊行のポリツィアーノ『著作集』の前書きで紹介し [AME I, p.25]、1499年の『天文論集



図6：『ポリフィーロの狂領恋夢』d7表に表現された「錨とイルカ」[Colonna 1998, p.69]



図7：ティトゥス・ウェスパシアヌス発行の「錨とイルカ」銀貨（筆者蔵）

『*Scriptores astronomici*』(表1-34)に付されたアルベルト・ピオに宛てた書簡の中で「錨とイルカ delphinus et ancora」について言及していた[AME I, p.27; Fletcher 1988, p.43]。「錨とイルカ」の図像の由来は後1世紀後半のローマ皇帝ティトゥス・ウェスパシアヌス(Titus Vespasianus, 79-81 A.D.)が後80年に発行した銀貨に刻印された錨とイルカの図像である(図7)。1507年からアルド家に滞在して『格言集 *Adagia*』第2版(表1-99)を編集したエラスムスは、その中で *Festina lente* という項目を立てて(II, 1, 1)、*σπεύδε βραδέως* の言葉の由来と「錨とイルカ」の図像との関連を説明している。その銀貨はピエトロ・ベンボがアルドに贈ったもので、エラスムスはアルドから見せてもらったことを伝えている[Erasmus 1991, pp.3-15]。

第2期を特徴付けるもう一つの出来事はネアカデミアの設立であった。アルドは1500年あるいは1501年頃に『ネアカデミア会則 *Νεακαδημίας Νόμος*』(表1-52)なる1枚刷りの文書を印刷した。活字はアルドのギリシア語活字 Type 3 (84Gr) が使用された。起草したのはネアカデミアで秘書を務め後に教皇クレメンス7世のチューターとなったシピオ・フォルティグエッラ(あるいはシピオーネ・フォルテグエッリ)(Fortiguerra, Scipio, or Forteguerra, Scipione, 1466-1515)である。それによれば、アルド、



クレタのヨアンネス (Joannes of Crete or Joannes Grigoropoulos)、シピオの3人でネアカデミアを創設して会則を取決めた。会則は、ギリシア語で会話をすること、それを破った時は罰金を支払うこと、罰金がある程度貯まり宴会を催すことができるようになったらアルドに委ねて宴会を開いて会にふさわしい人を招待する、会員以外ではギリシア語に通じない者や規則を知らない者は呼んではいけないが、外部の人でもギリシア語を学んでいる者やギリシア語を学びたい人は受け入れるというものであった。この会則に同意した人としてヴェネツィアの貴顕バッティスタ・エグナツィオ (Egnazio, Battista)、パオロ・ダ・カナル (Paolo da Canal)、ジロラモ・メノッキオ (Menocchio, Girolamo)、フランチェスコ・ロゼット (Rosetto, Francesco) の面々の名前が記された。この文書はヴァティカン教皇庁図書館に唯一現存するものであるが、アルドとともにヴェネツィアで活躍したギリシア人印刷家ザカリアス・カリエルゲスが1499–1500年に印行したムスロス編『ギリシア語大語源 *Etymologicum magnum graecum*』とガレノス (Galenus, Claudius) 『治療法 *Therapeutica*』の合綴本の表紙見返しに製本用の反故紙として張り込まれていたものである。アルドは自らの印刷活動のバックグラウンドとしてこのような親ギリシア的サロンといえるアカデミーを設立し、ヴェネツィアの学者やヴェネツィアを訪問した学者が集う場を提供したと考えられる [雪嶋 2004]。アルドは1502年から1504年にかけてアカデミーの名前を奥付に記した7書を印行している。

1502年 8月 ソポクレス ‘in aldi Romani Academia’

1502年 8–11月 スタティウス ‘in Academia Aldi Ro.’

1502年 9月30日 ジョヴァンニ・バッティスタ・エグナツィオ ‘Ex Academia Aldi Ro.’

1503年 2月 (新暦) オウイディウス第3巻 ‘in Academia Aldi’

1503年 11月14日 クセノポン ‘in Aldi Neacademia’

1504年 5月 シピオ・フォルティグウェツラ ‘ex Aldi Neacademia’

1504年6月 キリスト教者詩集第3巻 ‘ex Aldi Academia’

これら7書の奥付に「ネアカデミア」あるいは「アカデミア」の名前が冠せられた理由は明らかでない。7書に何らかの特別な共通点や刊行事情を見つかることはできない。しかし、1504年6月以降「アカデミア」の名前が見られなくなった理由としては、内部対立があったのではないか、またアルドはドイツの人文主義者コンラート・ツェルティス (Celtis, Conrad, 1459-1508) を介してアカデミアを神聖ローマ帝国へ移すことを考えていたからであろうとも考えられている [Lowry 1979, p.199]。

第2期にもいくつかの印刷特認権を得ている。前述の続きの1500年からリストアップすると以下ようになる [Fletcher 1988, pp.142-146, 151-152]。最初の4件はヴェネツィア議会および総督によるものであり、最後は教皇のものである。

1500年7月23日 シエナの聖カテリーナ『書簡集』10年間の印刷特認権

1501年3月23日 イタリック体活字とギリシア・ラテン作家7人の作品  
印刷の10年間の特認権

1502年10月17日 海賊版に対抗するための10年間の特認権

1502年11月14日 海賊版に対抗するための10年間の勅書

1502年12月17日 教皇アレクサンデル6世の勅書

2番目に挙げられた7人とは、セドゥリウス (Sedulius) (『キリスト教者詩集』に収録)、ユウエンクス (Juvencus)、アラトル (Arator)、プルデンティウス (Prudentius)、ノンヌス (Nonnus)、グレゴリウス・ナザンザヌス (Gregorius Nazanzenus)、ヨハネネス・ダマスカス (Johannes Damascus) であった。

これらの特認権はイタリック体活字の保護と海賊版の被害からの保護であった。特に海賊版の横行は驚くべきもので、リヨンのバルタザル・デ・ガビアーノ (Gabiano, Balthasar de) やバルテルミ・トロト (Troth,

Barthélemy) などによってアルドのイタリック体活字を模倣した活字で印刷された八折判古典文献が1502年頃から続々と登場した。印刷書目はユウェナリス、ペトラルカ、テレンティウス、ウェルギリウス、ホラティウス、マルティリアス、カトルス、ダンテ、ルカヌスなどで、アルド版をそっくりまねているが、奥付のないものが大半であり、奥付があっても印刷者名が記されていない。アルドはこれらの海賊版にひどく悩まされた。苦勞して校訂し編集したテキストがそっくりコピーされてしまったのである。この事実はアルド版が当時いかに普及し、フランスでも人気があった証左であろう。カリフォルニア大学図書館アーマンソン＝マーフィー・コレクションのアルド版目録では1502年頃からアルドが亡くなった1515年までの間で59点の海賊版が収録されている [AP, pp.503-519]。

### 5.3. 第3期：1504－1511年

第3期はアルド自身が転機を迎え、印刷所の活動が衰退した時期である。この時期の最大の出来事は、アルドがトッレザーニの娘マリアと1505年の謝肉祭の頃（2月4日頃）に結婚したことである [Fletcher 1988, p.28]。アルド53歳、新婦とは親子ほども歳が違っていた。アンドレア・トッレザーニはアルドの出資者であったが、姻戚関係を結んだことでアルドの義父となり、関係はさらに緊密になった。この年にアルドは病気をしたが1504年と同様に8書ほどをサンタゴスティーノの印刷所で刊行した。ところが、翌年初めにアルドは印刷所を大運河対岸のサン・パテルニアン (San Paternian) (現マニン広場 Campo Manin) のトッレザーニ家へ移した [Fletcher 1988, p.63]。しかし、1506年3月27日に遺言状をしたためてトッレザーニに財産管理を託し、ロンバルディアに旅立った。アルドは海賊版の問題やヴェネツィアの強力なライバルであるルカントニオ・ジュンタ (Giunta, Lucantonio, 1457-153) との関係など悩みが尽きず、休息が必要であったとされる [Lowry 1979, pp.153-158]。7月にはアルドはトッレザーニの郷里アゾーラへ旅している。そこで彼は不運にも逮捕監禁されるなど散々な目に遭っ

た。

1507年秋にアルドは印刷業に復帰した。エラスムスがアルド家を訪れたのはちょうどこの頃の10月28日であった。彼は自身がラテン語訳したエウリピデス『ヘクバ、アウリスのイピゲネイア *Hecuba et Iphigenia in Aulide*』（表1-97）を売り込みに来たのである。アルドはすぐに着手して年末までに八折判の印刷を仕上げた。エラスムスはアルド家で生活をともにして印刷所の様子を書きとめながら自著『格言集』の第2版を準備した。エラスムスは『格言集』を1507年1月にパリのジョス・バードから四折判90葉の小冊で刊行したが、この版に不満があり、改訂増補版をヴェネツィアで刊行しようとした。こうして1508年9月に二折判276葉の大増補版が完成した。

この時期の最も大きな印刷上の特徴は奥付の記述に「アルドと義父アンドレア・アゾーラニの家にて in aedibus Aldi et Andreae Asulani soceri」という刊記が登場したことである。これは前述のようにアルドがトッレザーニ家で印刷を行ったことによるものである。この刊記が最初に印刷されたのは小プリニウス（Plinius Secundus）『書簡集 *Epistolarum libri decem*』（1508年11月）（表1-100）である。しかし、その後の印刷物すべてにこの記述がされたわけではなく、第3期ではその他には1509年3月のプルタルコス『著作集 *Opuscula*』（表1-102）と同年4月のサルスティウス（Sallustius Crispus, Gaius）『カティリーナの陰謀、ユグルタの戦い他 *De coniuratione Catilinae. De bello Iugurthino*』（表1-104）だけである。他の印刷物には「アルドの家にて in aedibus Aldi」と記述されていた。フレッチャーによれば、アルドは再版には以前どおりの刊記を付けていたとするが [Fletcher 1988, 63]、前述のエラスムスの2版はアルド版としては初版であるが「アルドの家にて」であり、また1508年11月と1509年5月に上下巻を上梓した『ギリシア修辞学論集 *Rhetores graeci*』（ギリシア語初版）（表1-101, 105）も同様であることから、別な事情を検討する必要があるだろう。

アルドは1509年6月から1512年6月までの2年間にわたり印刷活動を中

断してフェラーラ、カルピ、ポローニャ、マントーヴァなどへ旅立ち、再び放浪の学者となった。ロウリーはその目的を3点挙げている。第1は自分の残した仕事の責任を軽減するかあるいは少なくとも誰かに譲るため、第2は拡大する家族のために自分ができるかぎりの安全を与えるため、第3は少なくとも10年ほど夢見た謎のアカデミーを設立するためという [Lowry 1979, p.160]。

#### 5.4. 第4期：1512－1515年

ヴェネツィアは1508年からのカンブレール同盟との戦いで衰退し、印刷業も困難な状況にあった。アルドは1512年6月までにそのような状況下のヴェネツィアに帰還した。印刷所の再開に努力して同年にアルド編集によるコンスタンティノス・ラスカリス『弁論術8部 *De octo partibus orationis*』(表1-106) およびマヌエル・クリュソロラス (Chrysoloras, Manuel) 『ギリシア語文法 *Erotemata*』(表1-107)、さらにキケロ (Cicero, Marcus Tullius) 『親しき者への手紙 *Epistolae familiares*』(表1-108) を刊行した。キケロについては刊記に「アルドと義父アンドレア・アゾーラニの家にて」と記しトルゼーニとの共同印刷を明記した。

こうして1515年1月までに共同出版で21版、単独で5版を上梓して最後の印刷活動を展開した。これらの中にはピンダロス (Pindarus)、プラトン (Plato) 『著作集 *Opera*』(表1-115)、ヘシュキオス (Hesychius) (表1-123)、アテナイオス (Athenaeus) (表1-124) というギリシア語初版が含まれており、いずれもマルコス・ムスロスが編集に参加した。ピンダロスの前書きはアンドレア・ナヴァージェロ (Navagero, Andrea) に献呈されたもので、アルドは印刷所の再開で彼が尽力したことに感謝している。そして本書の出版がアカデミアによるものであると述べた [AME I, pp.106-108; Staikos 1998, p.343]。また、プラトン『著作集』はマルコス・ムスロスの優れた校訂によるもので、1513年3月に即位した教皇レオ10世への献辞が添えられている。アルドは教皇にプラトン流のアカデミアの再興を願った。さらに、

ムスロスがギリシア語でプラトンへの頌詩を寄稿している。ステコス (Staikos, Konstantinos) はこの詩を古典期以後のギリシア語詩の最高傑作の一つであり、ルネサンス期に執筆されたギリシア語詩の最もすばらしい作品であると評価している [Staikos 1998, p.346]。プラトンはアルド晩年の傑作と言っても過言ではなかろう。

1513年11月24日にアルドは第3目録を刊行した(表1-117)。二折判で5ページにわたってギリシア語書8点、哲学書約36点、他の印刷所の刊行物4点、ラテン語書7点、袖珍判約26点の印刷書が記載されていた。ここに掲載された書目はおそらくは在庫していたものと思われる。そのため、長い間売れ残っていた書目を知ることができるものである。

アルドの晩年の印刷出版活動は親しい友人であるムスロスやナヴァージェロらによって支えられた。印刷所でのこれらの編集者と共同で写本の校訂と編集を進め、印刷に移していく作業は彼が夢見たアカデミアの一つの形ではなかろうか。1515年1月16日にアルドは第4回目の遺言状を書きとめた。彼は自分の財産を妻と5人の子どもたちにどのように配分するのかを決めた。アルドが病気であることはすでに伝わっていた。3週間後の2月6日にアルドは63歳で亡くなった [Fletcher 1988, pp.19-21]。後に印刷所を継ぐことになる末子のパオロはまだ3歳に満たなかった。アルド印刷所は義父トッレザーニが引き継ぎ、アルドの意思をパオロに伝える役割を果たした。

## 6. まとめ

印刷業者としてアルド・マヌーツィオはギリシア・ラテン古典文献やイタリア古典および人文主義者の文献の校訂・編集・印刷・出版を推進し、ルネサンスの文芸復興に中心的な役割を果たした。印刷所にはイタリアはもとよりフランスのジャン・グロリエ、イギリスのトマス・リナカー (Linacre, Thomas, ca. 1460-1524) のような貴族や学者がヨーロッパ各地から訪れ、人文主義者ネットワークの結節点のような役割を果たした。このよ

うなアルドの学術出版活動は以下のような特徴にまとめられよう。

1. 印刷所開業および各書の出版がアルベルト・ピオ、バルバーリゴ、トッレザーニら貴族や実業家によって資金が提供されたこと。
2. マルコス・ムスロスのような有能な校訂・編集者を片腕にもって優れた古典文献を独自に刊行できたこと。
3. もう一方にフランチェスコ・グリッフォという有能な活字制作者をもち、優れたローマン体、イタリック体、ギリシア語活字を制作できたこと。
4. ピエトロ・ベンボラヴェネツィア貴族や学者らと良好な関係を築き、写本の入手、校訂、編集が一貫して行われた。
5. ギリシア語文献の初版を数多く刊行し、その後の出版の手本となったこと。
6. 活字の使用と印刷書目についてヴェネツィア政府および教皇庁から印刷特認権を得たこと。
7. 優れた古典文献を八折判というポータブルな形に作り変えて次々と刊行したこと。
8. ネアカデミアを構想し、ギリシア人と親ギリシア的な人文主義者が集まる場所を開いて、学者と印刷業者の有機的な協力関係を築いたこと。
9. 印刷書目録を刊行して古典文献を販売してヨーロッパ各地に普及させたこと。

アルド・マヌーツィオが今日に至るまで詳細に研究され繰り返し語られている理由は、このような特徴を考慮すると彼の活動が印刷出版業という近代的な産業の一つの理想的な姿を示しているからにほかならないであろう。それは単なる印刷や出版のビジネスではなく伝統学問の復興と継承という文化的な側面と新しい書物の形の創造と出版形態の創出という革新的な側面があったからではなからうか。

付記：本稿は2002年度第1回日本出版学会学術出版部会（2002年10月3日、東京電  
気大学）で発表した内容を大幅に訂正加筆したものである。

注：サイモン・フレーザー大学図書館（カナダ）のWebsiteではロウリーが示した  
リスト [Lowry 1979, pp.112-113, 144-145, 150-151, 162-163] に基づいてアルド・  
マヌーツィオ印刷所の印刷本の統計を以下のように発表している

(<http://www.lib.sfu.ca/about/collections/specificcollections/specialcollections/aldus.htm#production> accessed on Sept. 27, 2004)。

1494-1500	Greek	Latin	Italian	Total
Folio	**12	**5	2	19
Quarto	*6	*12		18
Octavo				
Sextodecimo	1			1
	19	17	2	38

1501-1516	Greek	Latin	Italian	Total
Folio	26	***10		36
Quarto	2	8	1	11
Octavo	10	33	5	48
Tricesimo-secundo	1			1
	39	51	6	96

Grand Total	58	68	8	134
-------------	----	----	---	-----

Folio 55; Quarto 29; Octavo 48; Sextodecimo 1; Tricesimo-secundo 1.

\* Musaeus, 1494, counted once each under Greek and Latin.

\*\* Aratus, 1499, counted once each under Greek and Latin.

\*\*\* Poetae Christiani, 1502, parallel texts not included in totals.

この統計にはムーサイオスとアラトス（『天文学集』）がギリシア語とラテン語  
に重複して算入されているため、版の合計は132版となり、本稿で示した131版  
より1版多い。しかしながら、ロウリーのリストには未収録の印行書がAMT  
とAPに収録されているため、本稿では両書誌を基本にして試算した。本稿で  
の言語別統計ではギリシア語およびギリシア語を主体とするもの49版、ラテン  
語84版、イタリア語8版となり、上記の表と大きな差があるため、今後再検討  
するつもりである。



表 1 : アルド・マヌーツィオ印刷所印刷書リスト (印行年月日順)

No	Date	Author	Title	Lang	Format
1	28/2/1494/95; 8/3/1495	Lascaris, Constantinus	Erotemata	gr-lat	4
2	[1495]	Prodomus, Theodorus	Galeomyomachia	gr	4
3	1495, 1497	Musaeus	De Herone et Leandro	gr-lat	4
4	1/11/1495	Aristoteles	Aristoteles I: In logica	gr	2
5	25/12/1495	Gaza, Theodorus	Grammatica doctissima	gr	2
6	2/1495/96	Bembo, Pietro	De Aetna dialogus	lat	4
7	2/1495/96	Theocritus	In poetica	gr	4
8	8/1496		Thesaurus Cornucopiae	lat	2
9	27/8/1496	Benedetti, Alessandro	Diaria de bello Carolino	lat	4
10	1/6/1497	Theophrastus	Aristoteles IV: In philosophia III	gr	2
11	6/1497	Leonico, Niccolo	De epidemia quom morbo gallico vocant	lat	4
12	[ca. 1497/98]	Leonico, Niccolo	De tiro seu vipera	lat	4
13	7/1497	Maiolus, Laurentius	Epiphillides in dialecticis	lat	4
14	[13/9/1497]	Maiolus, Laurentius	De gradibus medicinarum	lat	4
15	[after 7/1497- 1/1498?]	Cicero, Marcus Tullius, pseudo	Synonyma; De differentiis	lat	4
16	9/1497	Jamblicus	De mysteriis aegyptiorum	lat	2
17	12/1497	Crastonus, Johannes	Dictionarium graecum cum interpretatione latina	gr-lat	2
18	5/12/1497		Horae. Officium in honorem Beatissimae virginis	gr	16
19	[not after 3/10/1498]		Breviarium. Brevissima introductio ad litteras graecas	lat	16
20	1/1497/98	Urbanus Bellunensis	Institutiones graecae grammaticae	lat-gr	4
21	1/1497/98	Aristoteles	Aristoteles III: In philosophia II	gr	2
22	2/1497/98	Aristoteles	Aristoteles II: In philosophia I	gr	2
23	15/4/1498	Athenaeus	Deipnosphistae	gr	2
24	6/1498	Aristoteles	Aristoteles V: In philosophia IV	gr	2
25	15/7/1498	Aristophanes	Comoediae novem	gr	2
26	7/1498	Poliziano, Angelo	Opera	lat	2
27	1/9/1498	Reuchlin, Johannes	Oratio ad Alexandrum VI pro Philippo Bavariae duce	lat	4
28	[before 10/1498]	Psalterium	Psalterium graecum	gr	4
29	[after 1/10/1498]	Manuzio, Aldo	Libri graeci impressi usque diem primum octobris MIID	lat	1
30	[29/3-not before 17/5/1499]		Epistulae diversorum philosophorum	gr	4

No	Date	Author	Title	Lang	Format
31	7/1499	Perotti, Niccolo	Cornucopiae, siue linguae commentarii, ubi quamplurima loca	lat	2
32	[not before 8]/7/1499	Dioscorides	Dioscorides de materia medicinali, libri sex	gr	2
33	20/9/1499	Amaseus, Hieronimus	Vaticinium	lat	4
34	[17]/10/1499		Scriptores astronomici	lat	2
35	12/1499	Colonna, Francesco?	Hypnerotomachia Poliphili	it	2
36	[19]/9/1500	St. Caterina da Siena	Epistole	it	2
37	12/1500	Lucretius Carus, Titus	De rerum natura	lat	4
38	[1502]?	Terenzio Florini	Apologia in Bartholinum Atriensem & Gabrielem Ciminum. Annotationes in commentarios J. Britannici in Iuvenalem	lat	4
39	1/1501-02		Poetae christiani veteres I	lat	4
40	4/1501	Vergilius Maro, Publius	Vergilius	lat	8
41	4/1501	Pico della Mirandola, Giovanni Francesco	De imaginatione	lat	4
42	5/1501	Horatius Flaccus, Quintus	Horatius	lat	8
43	2/1501/02; [6/1501]	Manuzio, Aldo	Rudimenta grammatices latinae linguae	lat	4
44	6/1501	Petrarca, Francesco	Le cose volgari	it	8
45	8/1501	Juvenalis, Decimus Junius	Juvenalis. Persius	lat	8
46	12/1501	Martialis, Marcus Valerius	Martialis	lat	8
47	12/1501	Valla, Giorgio	De expetendis et fugiendis rebus opus, 2 vols.	lat	2
48	12/1501	Donato, Girolamo	Ad Gallorum Regem oratio	lat	8
49	[1501]		Biblia	heb-gr-lat	2
50	[1501]	Nonnus Panopolitanus	Metabole tou kata Ioannen hagiou euaggeliou	gr	4
51	[1501-1503]	Lascaris, Constantinus	De octo partibus orationis	lat	4
52	[1501]	Fortiguerra, Scipio	Novae Academiae lex	gr	1
53	1/1502/03	Catullus, Caius Valerius	Catullus, Tibullus, Propertius	lat	8

No	Date	Author	Title	Lang	Format
54	1/1502/03; [3/1502]	Stephanus Byz- antius	De urbibus	gr	2
55	4/1502	Pollux, Iulius	Vocabularium	gr	2
56	4/1502	Cicero, Marcus Tul- lius	Epistolae familiares	lat	8
57	4/1502	Lucanus, Marcus Annaeus	Pharsalia	lat	8
58	5/1502	Thucydides	Thucydides	gr	2
59	1/1501/02; [6/1502]		Poetae christiani veteres, II	lat	4
60	8/1502	Sophocles	Tragaediae septem	gr	8
61	8/1502	Dante Alighieri	Le terze rime	it	8
62	9/1502	Herodotus	Herodoti libri novem	gr	2
63	30/9/1502	Egnazio, Giovanni Battista	Oratio in laudem Benedicti Prunuli	lat	8
64	10/1502	Interiano, Giorgio	La vita et sito de Zychi	it	8
65	10/1502	Valerius Maximus	Dictorum et factorum memora- bilium libri novem	lat	8
66	10/1502	Ovidius Naso, Pub- lius	[I] Metamorphoseon libri quin- decim	lat	8
67	8, 11/1502	Stattius, Publius Papinius	Silvarum libri quinque. Thebai- dos libri duodecim. Achilleidos libri duo	lat	8
68	12/1502	Ovidius Naso, Pub- lius	[II] Heroidum epistolae. Elegia- rum libri tres. De arte amandi libri tres. De remedio amoris libri duo	lat	8
69	2/1503/04	Euripides	Tragoediae septendecim. 2 vols.	gr	8
70	1/1502/03; 2/1503/04	Ovidius Naso, Pub- lius	[III] Fastorum libri VI, De Tristibus libri V, De Ponto libri IV	lat	8
71	16/3/1503	Manuzio, Aldo	Monitum in Lugdunenses ty- pographos	lat	2
72	[not before 4/1503]	Valerius Maximus	Dictorum et factorum memora- bilium libri novem	lat	8
73	2/1503/04; [4/1503]	Origenes	Homiliae	lat	2
74	2, 6/1503	Lucianus	Luciani opere	lat	2
75	22/6/1503	Manuzio, Aldo	Librorum et graecorum et lati- norum nomina quot quot in hunc usque diem excudendos curaumus	lat	2
76	7/1503	Bessarion	In calumniatorem Platonis libri quatuor	lat	2

No	Date	Author	Title	Lang	Format
77	6, [10]/1503	Ammonius	Ammonii Hermei commentaria in librum peri hermenias	gr	2
78	10/1503	Ulpianus	Vlpiani commentarioli in olynthiacas Philippicas que Demosthenis orationes	gr	2
79	[2], 10/1503	Xenophon	Xenophontis ommissa quae & graeca gesta appellantur	gr	2
80	11/1503		Florilegium diversorum epigrammatum in septem libros	gr	8
81	3/1504	Philoponus, Johannes	Ioannis grammatici in Posteriora utoria Aristotelis Commentaria	gr	2
82	5/1503?; 3/1504	Aristoteles	De natura animalium. De partibus animalium. De generatione animalium	lat	2
83	5/1504	Fortiguerra, Scipio	Oratio de laudibus literarum graecarum	lat	8
84	3/1501; 2/1502/03; [5/1504]	Philostratus	Philostrati de uita Apollonii Tyanei libri octo	gr	2
85	6/1504	Nazianzeus, Gregorius	[Poetae Christiani, v.3] Carmina ad bene beateque vivendum	gr	4
86	8/1504	Emiliano, Quinzio	Encomiastica ad divos Foedericum imperatorem et Maximilianum regum Romanorum	lat	8
87	[10/1504]	Homerus	Ilias. Vlysea. Batrachomyomachia. 2 vols	gr	8
88	[10], 11/1504	Demosthenes	Demosthenis orationes	gr	2
89	[8/1504]; 3/1505	Bembo, Pietro	Gli Asolani	it	4
90	4/1505	Aurelio Augurelli, Giovanni	Carmina	lat	8
91	7/1505		Horae in laudem Beatiss. Virgini secundum consuetudinem Romanae Curiae	gr	32
92	5, 8/1505	Pontano, Giovanni Gioviano	Opera	lat	8
93	9/1505	Castellesi, Adriano	Venatio	lat	8
94	10/1505	Aesopus	Vita & fabellae cum interpretatione latina	gr	2
95	12/1505	Vergilius Maro, Publius	Opera	lat	8
96	[1504-05]	Quintus Smyrnaeus	Quinti Calbri Paralipomenon Homerou	gr	8
97	12/1507	Euripides	Hecuba et Iphigenia in Aulide	lat	8

No	Date	Author	Title	Lang	Format
98	[10/1507]; 4/1508	Manuzio, Aldo	Institutiones grammaticarum libri quatuor	lat	4
99	9/1508	Erasmus, Desiderius	Adagiorum chiliades tres	lat	2
100	11/1508	Plinius Secundus	Epistolarum libri decem	lat	8
101	11/1508		Rhetores Graeci, I	gr	2
102	3/1509	Plutarchus	Opuscula	gr	2
103	3/1509	Horatius Flaccus, Quintus	Poemata	lat	8
104	4/1509	Sallustius Crispus, Gaius	De coniuratione Catilinae. De bello Iugurthino. ...	lat	8
105	5/1509		Rhetores Graeci, II	gr	2
106	10/1512	Lascaris, Constantinus	De octo partibus orationis	lat	4
107	1512	Chrysoloras, Manuel	Erotemata Chrysolorae	gr	8
108	1512	Cicero, Marcus Tullius	Epistolae familiares	lat	8
109	1/1513/14	Pindarus	Olympia. Pythia. Nemea. Isthmia	gr	8
110	1/1513/14	Strozzi, Tito Vespasiano	Strozzi poetae pater et filius	lat	8
111	2/1513/14; [3/1514]	Aristoteles	De natura animalium. De partibus animalium. De generatione animalium.	lat	2
112	4/1513	Caesar, Gaius Iulius	Commentariorum de bello Gallico libri VIII. De bello civili libri IV	lat	8
113	4, [5]/1513		Oratio graeci. 3 vols	gr	2
114	6/1513	Cicero, Marcus Tullius	Epistolarum ad Atticum, ad Brutum, ad Quintum fratrem libri XX	lat	8
115	9/1513	Plato	Omnia Platonis opera	gr	2
116	9, 11/1513	Perotti, Niccolo	Cornucopiae latinae linguae	lat	2
117	24/11/1513	Manuzio, Aldo	Librorum et graecorum et latinorum nomina quot quot in hunc usque diem excudendos curauimus	lat	2
118	1513	Pontano, Giovanni Gioviano	Opere	lat	8
119	9/1513; [2/1514]	Alexander Aphrodisiensis	Alexandri Aphrodisie in topica Aristotelis, commentarii	gr	2
120	2/1514	Suda	Lexicon	gr	2

No	Date	Author	Title	Lang	Format
121	3/1514	Cicero, Marcus Tullius	Rhetoricorum ad C. Herennium, De inventione, De oratore ad Quintum fratrem	lat	4
122	5/1514		Scriptores rei rusticae	lat	4
123	8/1514	Hesychius	Dictionarium	gr	2
124	8/1514	Athenaeus	Deipnosophistae	gr	2
125	8/1514	Quintilianus, Marcus Fabius	De institutione oratoria	lat	4
126	8/1514	Petrarca, Francesco	Il Petrarca	it	8
127	9/1514	Sannazzaro, Jacopo	Arcadia	it	8
128	10/1514	Vergilius Maro, Publius	Virgilius	lat	8
129	10/1514	Valerius Maximus	Exempla quatuor et viginti nuper inventa ante caput de omnibus	lat	8
130	12/1514	Manuzio, Aldo	Institutionum grammaticarum libri quatuor	lat	4
131	1/1515	Lucretius Carus, Titus	Lucretius	lat	8

表 2 : アルド・マヌツィオ印刷八折判リスト (言語別印行年月日順)

No	Date	Author	Title	Lang
60	8/1502	Sophocles	Tragaediae septem	gr
69	2/1503/04	Euripides	Tragoediae septendecim. 2 vols.	gr
80	11/1503		Florilegium diversorum epigrammatum in septem libros	gr
87	[10/1504]	Homerus	Ilias. Vlysea. Batrachomyomachia. 2 vols	gr
96	[1504-05]	Quintus Smyrnaeus	Quinti Calbri Paralipomenon Homerou	gr
107	1512	Chrysoloras, Manuel	Erotemata Chrysolorae	gr
109	1/1513/14	Pindarus	Olympia. Pythia. Nemea. Isthmia	gr
44	6/1501	Petrarca, Francesco	Le cose volgari	it
61	8/1502	Dante Alighieri	Le terze rime	it
64	10/1502	Interiano, Giorgio	La vita et sito de Zychi	it
126	8/1514	Petrarca, Francesco	Il Petrarca	it
127	9/1514	Sannazzaro, Jacopo	Arcadia	it
40	4/1501	Vergilius Maro, Publius	Vergilius	lat
42	5/1501	Horatius Flaccus, Quintus	Horatius	lat
45	8/1501	Juvenalis, Decimus Junius	Juvenalis. Persius	lat

No	Date	Author	Title	Lang
46	12/1501	Martialis, Marcus Valerius	Martialis	lat
48	12/1501	Donato, Girolamo	Ad Gallorum Regem oratio	lat
53	1/1502/03	Catullus, Caius Valerius	Catullus, Tibullus, Propertius	lat
56	4/1502	Cicero, Marcus Tullius	Epistolae familiares	lat
57	4/1502	Lucanus, Marcus Annaeus	Pharsalia	lat
63	30/9/1502	Egnazio, Giovanni Battista	Oratio in laudem Benedicti Prunuli	lat
65	10/1502	Valerius Maximus	Dictorum et factorum memorabilium libri novem	lat
66	10/1502	Ovidius Naso, Publius	[I] Metamorphoseon libri quindecim	lat
67	8, 11/1502	Statius, Publius Papinius	Silvarum libri quinque. Thebaidos libri duodecim. Achilleidos libri duo	lat
68	12/1502	Ovidius Naso, Publius	[II] Heroidum epistolae. Elegiarum libri tres. De arte amandi libri tres. De remedio amoris libri duo	lat
70	1/1502/03; 2/1503/04	Ovidius Naso, Publius	[III] Fastorum libri VI, De Tristibus libri V, De Ponto libri IV	lat
72	[not before 4/1503]	Valerius Maximus	Dictorum et factorum memorabilium libri novem	lat
83	5/1504	Fortiguerra, Scipio	Oratio de laudibus literarum graecarum	lat
86	8/1504	Emiliano, Quinzio	Encomiastica ad divos Foedericum imperatorem et Maximilianum regum Romanorum	lat
90	4/1505	Aurelio Augurelli, Giovanni	Carmina	lat
92	5, 8/1505	Pontano, Giovanni Gioviano	Opera	lat
93	9/1505	Castellesi, Adriano	Venatio	lat
95	12/1505	Vergilius Maro, Publius	Opera	lat
97	12/1507	Euripides	Hecuba et Iphigenia in Aulide	lat
100	11/1508	Plinius Secundus	Epistolarum libri decem	lat
103	3/1509	Horatius Flaccus, Quintus	Poemata	lat
104	4/1509	Sallustius Crispus, Gaius	De coniuratione Catilinae. De bello Iugurthino.	lat
108	1512	Cicero, Marcus Tullius	Epistolae familiares	lat
110	1/1513/14	Strozzi, Tito Vespasiano	Strozzi poetae pater et filius	lat

No	Date	Author	Title	Lang
112	4/1513	Caesar, Gaius Iulius	Commentariorum de bello Gallico libri VIII. De bello civili libri IV	lat
114	6/1513	Cicero, Marcus Tullius	Epistolarum ad Atticum, ad Brutum, ad Quintum fratrem libri XX	lat
118	1513	Pontano, Giovanni Gioviano	Opere	lat
128	10/1514	Vergilius Maro, Publius	Virgilius	lat
129	10/1514	Valerius Maximus	Exempla quatuor et viginti nuper inventa ante caput de omnibus	lat
131	1/1515	Lucretius Carus, Titus	Lucretius	lat

## 参考文献

- AM *Aldo Manuzio e l'ambiente veneziano, 1494-1515* / a cura di Susy Marcon e Marino Zorzi. Venezia : il Cardo, 1994.
- AME *Aldo Manuzio editore : dediche, prefazioni, note ai testi* / a cura di Giovanni Orlandi, I-II. Milano : Edizioni il Polifilo, 1975 (Documenti sulle arti del libro ; XI).
- AMT *Aldo Manuzio tipografo, 1494-1515 : catalogo* / a cura di Luciana Bigliuzzi [et al.], Firenze, Biblioteca Mecicea Laurenziana 17 giugno-30 luglio 1994. Firenze : Octavo, 1994.
- AP *The Aldine Press : catalogue of the Ahmanson-Murphy Collection of Books by or relating to the press in the Library of the University of California, Los Angeles incorporating works recorded elsewhere*. Berkeley, Calif. : University of California Press, 2000.
- Barker 1992 Barker, Nicolas. *Aldus Manutius and the development of Greek script & type in the fifteenth century*. Second edition. New York : Fordham University Press, 1992.
- Barker 1998 Barker, Nicolas. *The Aldine italic. Aldus Manutius and Renaissance culture : essays in memory of Franklin D. Murphy : acts of an international conference, Venice and Florence, 14-17 June 1994*. Florence : Leo S. Olschki, 1998 (Villa i tatti : the Harvard University Center for Italian Renaissance Studies ; 15), pp. 95-107.
- Bühler 1973 Bühler, Curt F. *Early books and manuscripts : forty years of research*. New York : The Grolier Club and The Pierpont Morgan Library, 1973.
- Colonna 1998 Colonna, Francesco. *Hypnerotomachia Poliphili* / a cura di Marco Ariani e Mino Gabriele. Milano : Adelphi Edizioni, 1998 (Classici ; 66).
- Erasmus 1991 Erasmus, Desiderius. *Collected works of Erasmus*, vol. 33: Adages II I



- 1 to II vi 100 / translated and annotated by R. A. B. Mynors. Toronto : University of Toronto Press, 1991.
- Fletcher 1988 Fletcher, Harry George III. *New Aldine studies : documentary essays on the life and work of Aldus Manutius*. San Francisco : Bernard M. Rosenthal, 1988.
- Geanakoplos 1973 Geanakoplos, Deno John. *Byzantium and the Renaissance : Greek scholars in Venice : studies in the dissemination of Greek learning from Byzantium to Western Europe*. Hamden, Conn. : Archon Books, 1973.
- Jensen 1998 Jensen, Kristian. The Latin grammar of Aldus Manutius and its fortuna. *Aldus Manutius and Renaissance culture : essays in memory of Franklin D. Murphy : acts of an international conference, Venice and Florence, 14-17 June 1994*. Florence : Leo S. Olschki, 1998 (Villa i tatti : the Harvard University Center for Italian Renaissance Studies ; 15), pp. 247-285.
- Labowsky 1979 Labowsky, Lotte. *Bessarion's library and the Biblioteca Marciana : six early inventories*. Roma : Edizioni di Storia e Letteratura, 1979 (Sussidi eruditi ; 31)..
- Legrand I Legrand, Emile. *Bibliographie hellénique, ou Description raisonnée des ouvrages publiés en grec par des grecs aux XVe et XVIe siècle*, t. I. Bruxelles : Culture et Civilisation, 1963 (reprint of the 1885 edition published in Paris).
- Lowry 1979 Lowry, Martin. *The world of Aldus Manutius : business and scholarship in Renaissance Venice*. Oxford : Basil Blackwell, 1979.
- Renouard 1803 Renouard, Antoine Augustin. *Annales de l'imprimerie des Alde, ou, Histoire des trios Manuce et de leurs éditions*. t. I-II. Paris : A. A. Renouard, 1803.
- Renouard 1991 Renouard, Antoine Augustin. *Annales de l'imprimerie des Alde, ou Histoire des trios Manuce et de leurs éditions*. New Castle, Del. : Oak Knoll Books, 1991 (reprint of the third edition published by J. Renouard, Paris, 1834).
- Staikos 1998 Staikos, Konstantinos Sp. *Charta of Greek printing : the contribution of Greek editors, printers and publishers to the Renaissance in Italy and the West*, vol. I: Fifteenth century. Cologne : Dinter, 1998.
- スエトニウス スエトニウス著、国原吉之助訳『ローマ皇帝伝』上、岩波書店、1986.8 (岩波文庫)。
- 雪嶋 1991 雪嶋宏一「インキュナブラ書誌の歴史 (1)」、『早稲田大学図書館紀要』33号、1991.1、pp. 1-20。
- 雪嶋 2004 雪嶋宏一「アルド・マヌーツィオのネアカデミア」、『イタリア図書』31、イタリア書房、2004.10、pp. 13-16。

(ゆきしま こういち 理工学図書館担当課長)